



2024.2.28 発行

No.64

令和6年能登半島地震により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災されました皆様に心からのお見舞いを申し上げます。

そして、被災者の支援のためにご尽力されているすべての方々に深く敬意と感謝を表します。

看護職は、被災された人々の健康を見守り、それぞれの生活の中で、安心して日々を過ごすことができるよう活動しております。本学会では、看護職が継続的に活動できるよう支援いたします。

皆様の安全・安心と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

聖路加看護学会理事長  
片岡弥恵子

## ■周年事業委員会の立ち上げ

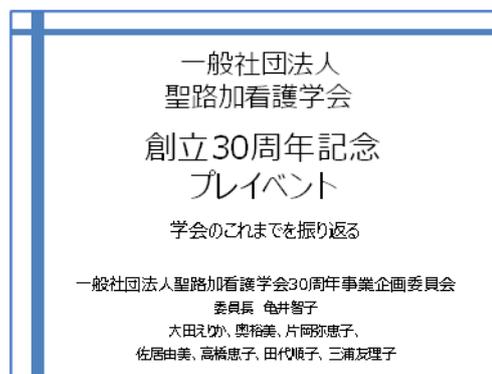
委員長 亀井智子

当委員会は、学会設立30周年の節目をめざして立ち上げました。

今年度は学術大会において「プレイベント—SLNR28年のあゆみ—」を開催しオンデマンドで配信しました。

### 第28回学術大会での企画

これまで当学会が発信してきた内容を振り返り、それらの輩出に直接関係してきた委員が自身の目を通した学会の魅力、これまで果たしてきた役割、そして裏方事情を語り合い、それを動画にまとめ、配信しました。



プレイベントの様子

## お知らせ

### —聖路加看護学会思い出の写真募集—

設立 30 周年となる 2025 年に向け、これまでの大会、セミナーなど、当学会の催しものに関連する写真を広く募集しています。会員の皆様が会場内で撮影した写真を是非お貸しください。それらを集めた写真集やパネル作成を検討しています。

※被写体の使用許可を得たものをご提出ください。よろしくお願いいたします。

提出期限: 2025 年 3 月 31 日

提出先 URL: <https://www.dropbox.com/request/FniSsotoDsii0uiaQbV8>

提出先 :QR コード



(委員: 亀井智子、大田えりか、奥裕美、片岡弥恵子、佐居由美、高橋恵子、田代順子、三浦友理子)

## ■ 高度看護実践開発委員会より～オンライン研修会報告～

### 「高度実践看護師の新たな挑戦に向けて」

柳橋礼子

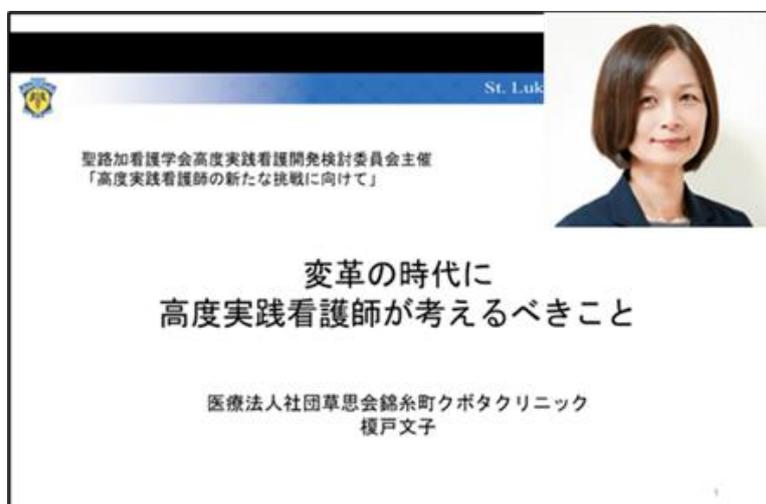
今年度の高度看護実践開発検討委員会主催のオンライン研修は、「高度実践看護師の新たな挑戦に向けて」をテーマに開催しました。

講師は、お二人、手島恵氏(千葉大学大学院看護学研究院 教授、国際看護師協会 理事)、榎戸文子氏(医療法人社団草思会 錦糸町クボタクリニック 看護実践博士 DNP)をお迎えしました。

手島氏より「WHOの看護・助産の方向性と世界の高度実践看護師の動向ー将来にむけた高度実践看護師への期待ー」をテーマにお話を頂きました。世界看護師協会(ICN)理事より直接、日頃、意識していないICNの最新情報を頂けたことは、新鮮な気づきの連続でした。ICNが、WHOとも密接に連携していること、目標管理の元、戦略的に実践行動が明示されていることなど、実は高度実践看護師が認識すべき前提でもあることも伝わってきました。そして、服役者、子どもホスピスへの対応を実践するICNの同僚の方がたの実践は、セミナーでなければ知り得ないリアルな実践例そのものでした。



榎戸氏より「変革の時代に高度実践看護師が考えるべきこと」をテーマにお話を頂きました。ご自身の博士課程(Doctor of Nursing Practice:DNP)での具体的な思考と実践過程のご紹介は大変明快で、支援プロジェクトの展開(①エビデンスに基づく関わり、②実装のための戦略、③実装アウトカム、④効果アウトカム)やプロトコルの実装7ステップは、実践が明確に記述され手順書が作成されることの大切さが伝わってきました。



手島氏のご講演後には、聴衆からの質問に対して、『各自の実践の場のみならず、地域で暮らしている人々へも視野を広げ、実践活動を俯瞰して検討し、実践してほしい』との提案がありました。榎戸氏は、ご講演後、実際に本プログラムの実践にあたり大変だったこととして、『多職種と協働する（一緒に行く）ことだった』と回答されました。一方、複数の聴衆から、以下、数点の期待が榎戸氏に伝えられました。それは、効果効能のある実装成果を関連学会との連携で早く広めてほしい、管理者との関係も重要である、観察研究の研究エビデンス状況から、数量にとられない利点と有用性を看護は活用するのが良い、今後、DNP 修了生と、専門看護師の有機的な連携を期待するなどでした。

参加者 154 名のうち、73 名（回収率 47.4%）よりアンケート回答を頂きました。回答者は、30 代が 2 割弱、40 代が 3 割強、50 代が 4 割弱という構成で、6 割強は専門看護師（中でも精神看護領域の方が最多）でした。講演に対しては、両講師の『講義内容の理解』はいずれも 9 割強が肯定的回答、『研修満足度』および、『今後の仕事で役立つ』はいずれも肯定的回答が 95%前後でした。

世界規模の現状から見える高度実践看護師への期待と課題、実践の変革に資する具体的な実装研究の解説と高度実践看護師への提案を両講師から得られたことで、参加者は新たな可能性と実装の必要性を自身のこととして受け止めることができ、本研修会は盛会裏に終えられました。最後に、講師、聴衆両者より当日の運営にご協力を頂きましたこと、委員一同、心よりお礼申し上げます。

（担当：柳橋礼子、青木悠、小林成光、小松崎朗子、山本加奈子、吉田智美、渡辺かづみ）



## ■第28回聖路加看護学会学術大会

～優秀演題賞・若葉賞のご紹介～

### 優秀演題賞（研究発表）

「日本人看護師が外国人看護師と協働するうえで経験する困難と支援ニーズ」

庄木里奈（聖路加国際大学大学院博士後期課程）

「日本人看護師が外国人看護師と協働するうえで経験する困難と支援ニーズ」という演題で、優秀演題賞を頂きまして、誠にありがとうございます。

外国人看護師が日本で就労するうえで、職場の日本人看護師からの支援は非常に重要です。しかし、医療現場で外国人看護師を支援する日本人看護師の負担が大きいことも報告されています。本研究結果から、日本人看護師は、言語の壁に加え、外国人看護師の母国の文化や宗教、看護ケアの違いに起因する困難を経験していることが明らかになりました。今後、日本人看護師が外国人看護師の特性や支援方法について学べる機会をつくることで、外国人看護師と協働するうえでの負担を軽減できる可能性があると考えます。今回頂いた賞を励みに、日本人看護師と外国人看護師の医療現場での協働に貢献していけるよう、研究者としてより一層精進して参ります。

#### インタビュー結果

### 外国人看護師と働く上での困難

カテゴリー	サブカテゴリー
日本で求められる看護業務を自立して実践できない	日本語が苦手なことによる業務上の支障
	母国の看護業務との違いによる業務上の支障
	母国で学習していない業務における困難
	国家試験合格後の学習意欲の低下
外国人看護師特有の配慮を求められる	母国では1人前の看護師であることを尊重した関わりが求められる
	日本人に馴染みがない宗教への対応の困難
	家族と離れて就労するが故の問題への対処
日本の医療施設における外国人看護師の受け入れ体制不足	外国人看護師が求める支援を日本人看護師が提供できない
	外国人看護師にケアされることへの患者の抵抗感
	医師の外国人看護師に対する配慮の不足

スライド:

日本人看護師18名へのインタビューからカテゴリー化された「外国人看護師と働く上での困難」

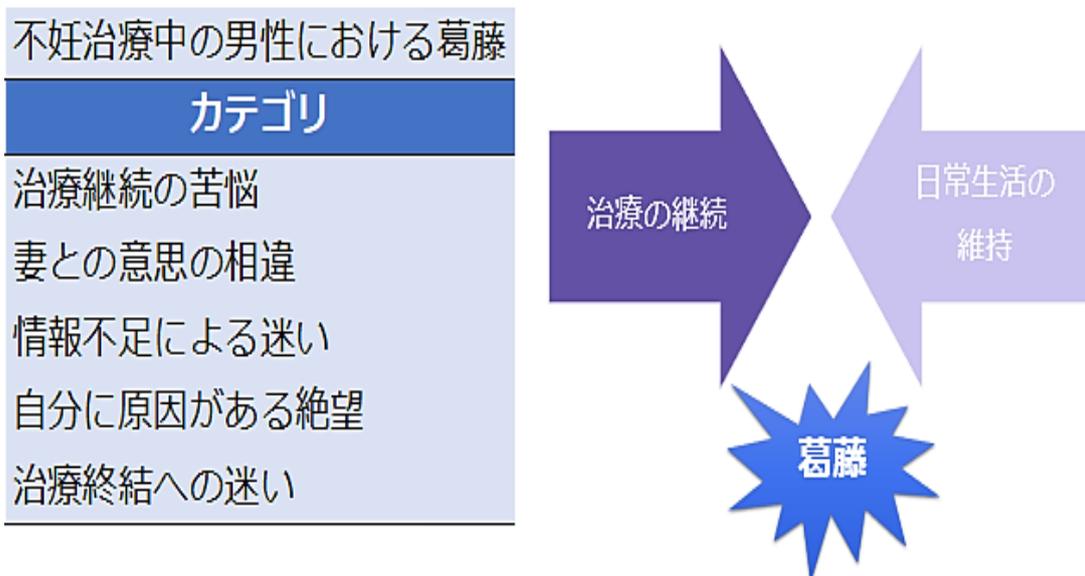
## 優秀演題賞（研究発表）

### 不妊治療中の男性における葛藤体験

朝澤恭子（東京医療保健大学）

この度、「不妊治療中の男性における葛藤体験」の演題に対して、第28回聖路加看護学会 優秀演題賞を拝受し、心より感謝申し上げます。採択していただき、光栄です。誠にありがとうございました。この研究は、不妊治療を受ける男性8名を対象にインタビューさせていただいた貴重なデータを分析しました。

男性患者様の葛藤として、【治療継続の苦悩】【妻との意思の相違】【情報不足による迷い】【自分に原因があることの絶望】【治療終結への迷い】が抽出されました。治療に関して男女双方が納得のいく意思決定ができるために、男性に対しても、女性が受けている治療内容の詳細や、治療終結を視野に入れた情報提供を行う必要があることが示唆されました。この結果が患者様の支援に役立てられますと幸いです。



スライド：結果の一部

## 優秀演題賞(実践報告)

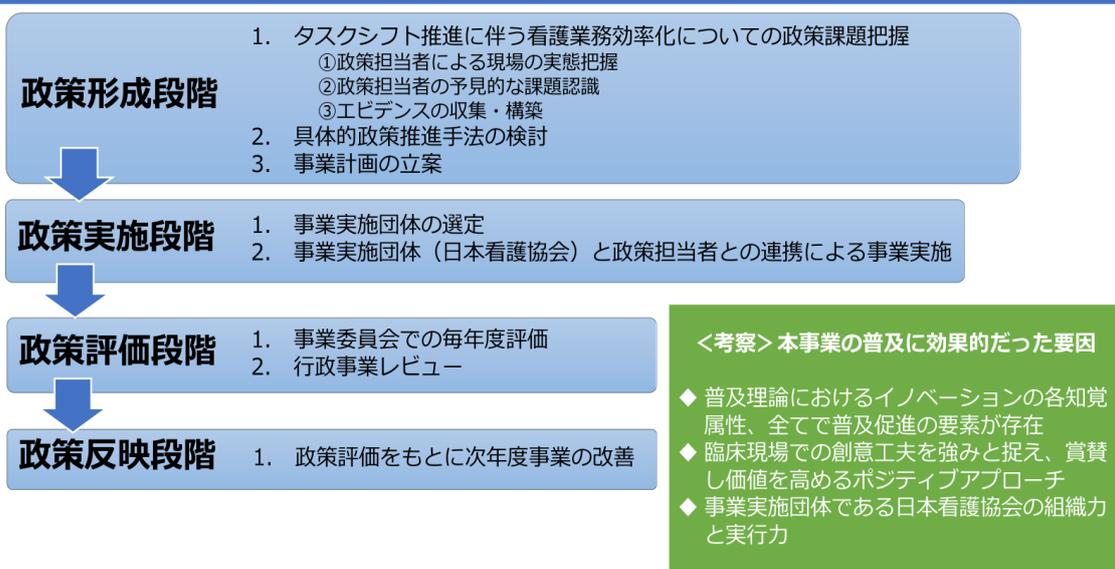
### 「看護業務効率化先進事例収集・周知事業」の政策過程の実際

大森祥乃(聖路加国際病院)

優秀演題賞(実践報告)を頂戴し、大変光栄に存じます。本演題は、厚生労働省事業の「看護業務効率化先進事例収集・周知事業」の政策過程の実際を、当時の政策担当者であった看護系技官の関与を中心に報告したものです。政策形成段階では、タスクシフト推進という国の流れから、看護業務効率化について政策課題が把握され、政策推進手法や事業内容が具体化されました。政策実施段階では、事業実施団体の選定、実施団体と政策担当者との連携が図られ、事業委員会や行政事業レビューによる事業評価段階を経て、その評価結果に基づき事業が改善され(政策反映段階)ました。事業は5年間継続され、看護界で一定程度認知されています。本事業では、普及理論やポジティブ・アプローチの手法の活用、事業実施団体の組織力・実行力が効果的だったと考えます。

看護政策を動かし、またその影響を受けるのは、現場の看護職であり、看護の受け手です。国内における看護政策に関する研究や報告は少なく、今後もこれらのテーマに取組み、臨床現場と政策との懸け橋の一助となれるよう努力を重ねてまいります。

## 看護業務効率化事業の政策過程



発表スライド

## 若葉賞

### 在日イスラム教徒女性が医療従事者に望む配慮

小池詩織(八王子医療センター)

「在日イスラム教徒女性が医療従事者に望む配慮」という発表に若葉賞を頂き、大変光栄に思います。研究のきっかけは、イスラム教徒の家族と親交を深める中で、医療機関を受診する際に困難がある事を知り、同じような状況の人が他にもいるのではないかと考えたためです。日本に住む外国人イスラム教徒女性4名にインタビュー調査を実施したところ、在日イスラム教徒女性は、医療サービスを受けるときでも宗教上の教えを守りたいと願っていました。イスラム圏では当たり前の習慣であっても日本では全く異なるので、多様な背景や必要な配慮についてまずは知る事が大切だと思います。外国人イスラム教徒女性と医療機関の相互の理解が重要だと考え、パンフレットを作成しました。

医療スタッフの皆様へ

## イスラム教徒の女性からのお願い

イスラム教徒の女性は、宗教上の理由から、治療や入院に際して特別なご配慮を必要とします。皆様のご理解とご協力をお願いします。

### 1 できれば女性の医療スタッフを希望します！

※特にプライベートな部位(産婦人科・乳房・肛門)に関しては女性でなくてはなりません。

#### ▶ 男性スタッフや医学生の同席・見学もご遠慮ください。

- ✓「産婦人科と肛門科は女性医師でないとは嫌です。」
- ✓「女性の婦人科医を探して受診したら、診察中に男性医学生が見学してショックでした。男性は嫌だと説明したのに…」
- ✓「会陰縫合中に男性小児科医が、赤ちゃんの診察に来てショックでした。」

#### ▶ 緊急時は男性でもお願いしたいです。(絶対に嫌な人もいます)

- ✓「女性の先生がいっしょに診てもらいたいです。緊急の場合は大丈夫です。男性の産婦人科医は絶対に嫌です。」
- ✓「流産かけた時に女医さんを探して病院を回りましたが、残念ながら亡くなりました。」



#### ▶ プライベートな部位以外は、基本的に男性でもOKです。

- ✓まずは女医さんを探しますが、いなければ歯医者さんや整形外科などの一般診療は男性でも大丈夫です。

#### ▶ 男性の前では、短時間でも肌・髪の露出は避けたいです。

- ✓腕・髪・足はなるべく隠すようにしていますので、検査着が短いと落ち着きません。

#### ▶ ベッドの上ではヒジャブ(スカーフ)を外しているため、入室時は声を掛けてください。

- ✓モスリムの女性は寝る時などは髪を覆うヒジャブを取ります。突然入って来られると動揺します。

### 2 薬・食事について

#### ▶ 入院時に栄養管理上問題がなければ、食事の持込み許可をお願いします。

- ✓薬も含め、食べられないものが沢山あります。日本特有の食材は、ほとんど食べられません。
- ✓豆腐、ツナ、うどん、バター、シーフードは基本的にOK。
- ✓無添加の牛乳は飲めますが、ゼラチンや乳化剤が添加された乳製品は食べられない人がいます。

#### ▶ 豚肉・豚由来成分(ゼラチン)はNGです。

- ✓「豚のゼラチンが含まれる薬も多いので、よく調べなくてはなりません。」
- ✓「その薬しかない時は仕方なく飲んでいますが、本当は含まれていないものを飲みたい。」

#### ▶ アルコールはNGです。

- ✓醤油、味噌にもアルコールが含まれている商品があり、食べられない人がいます。
- ✓みりんもアルコールです。
- ✓うがい薬、カプセル薬に注意してください。
- ✓消毒のためのアルコール、アルコール綿は大丈夫です。



### 3 お祈りについて

#### ▶ 入院・通院中であっても、お祈りの時間を大切にしています。

- ✓礼拝は1日5回を7~8分です。
- ✓時間帯も2~3時間の幅があるので、ケアや診察がない時間を教えてください。
- ✓入院中でも、できればお祈りをしたいので、ケアや診察に支障のない時間を教えてください。

#### ▶ お祈りする場所も必要です。

- ✓できれば個室やカーテンの中など、1畳程度で良いので静かなスペースがあれば教えてください。
- ✓女性はお祈りをするところを見られるのが恥ずかしいので、10分くらいお祈り出来る場所を貸していただけるとありがたいです。



このパンフレットは、日本に在住するモスリム女性にインタビューを行った結果を元に作成しました。お示したのは医療従事者をお願いしたい基本事項ですが、**個人差や個人の考え・判断があります**ので、患者さんや家族にお尋ねください。イスラム教に関して、ご理解とご協力をお願いします。

聖路加国際大学 小池詩織・長松康子

## ■ 学術交流委員会からのお知らせ

❁2023 年度学術交流集会を開催します！

### 健やかに働く — カスタマーハラスメントと看護 —

講師：島田恭子氏

(日本カスタマーハラスメント対応協会代表、東洋大学現代社会総合研究所客員研究員、精神保健福祉士)

2024 年 3 月 14 日(木) 18 時~19 時 50 分

オンライン開催(会員無料、非会員 2000 円)

「カスタマーハラスメント」とは、顧客等からの暴行、脅迫、ひどい暴言、不当な要求等の著しい迷惑行為のことです。医療機関、在宅医療の現場で看護職等が療養者やその家族からのハラスメントによって、生命への危機や健康上の不調を体験していることが報告されています。交流集会では、看護の専門家として、ケア労働者として、カスタマーハラスメントにどう向き合うか、療養者や家族とパートナーシップを築くにはどうすべきか、学術的に検討します。

参加申込方法：2024 年 2 月 29 日(木)までに、下記の専用 WEB に登録してください。

<https://peatix.com/event/3767418>

(担当：吉田千文、青木美紀子、鈴木美穂、佐藤直子、松本文奈、高橋奈津子、大森祥乃、牧野晃子)

SJNR 2023 年度 聖路加看護学会 学術交流委員会主催 学術交流会

## テーマ： 健やかに働く カスタマーハラスメントと看護

2024 年3月14日(木)

時間：18:00~19:50

\*参加費：学会員 無料  
非学会員 2000 円

\*方法：オンライン開催

### 開催趣旨

「カスタマーハラスメント」とは、顧客等からの暴行、脅迫、ひどい暴言、不当な要求等の著しい迷惑行為のことです(厚生労働省「カスタマーハラスメント対策企業マニュアル」)。  
医療機関を対象とした調査(三木ら,2020)では、回答した 941 施設の 85.5%で、また在宅を含めた介護事業所・施設の調査(三菱総合研究所, 2022)でも、看護職等がケア対象者やその家族からのハラスメントを経験していることが分かっています。そして身体的受傷や精神的不調をきたすことも報告されています。  
看護職はケア対象者のアドボケイターとしての意識が強く、ハラスメントを経験しても「仕方がない」とすませてしまいがちです。この学術交流会では、専門家として、ケア労働者として、カスタマーハラスメントにどう向き合うか、療養者や家族とパートナーシップを築くにはどうすべきか、学術的に検討し、  
健やかな職場づくりを目指して、意見交換をしたいと思います。

参加申込：2023 年12月4日(月) ~ 2024 年2月29日(木)

講師：島田恭子 博士(保健学)

日本カスタマーハラスメント対応協会 代表  
一般社団法人ココロバランス研究所 代表理事  
東洋大学現代社会総合研究所 客員研究員  
精神保健福祉士(PSW)

<講師紹介>

(脳アクセント、脳アーンスト&ヤングなどでの人材育成の経験から、心の健康・予防の重要性を痛感。東京大学大学院医学系研究科で、予防医学・メンタルヘルスの研究に取り組む。保健学博士。最近では、サービス業・対人援助職のカスタマーハラスメントに関する研究や、育児世代のストレスマネジメントに力を入れている。日テレ系「情報ライブ ミヤネ屋」、NHK「あさイチ」では、カスタハラ解説などで出演。著書「fわかる社会人基礎力~人生100年時代を生き抜く力」など。



社会人基礎力

## ■ 選挙管理委員会からのお知らせ

日頃より選挙管理委員会の活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。2023年度は9月に評議員選挙、11月に理事・監事選挙の2つの選挙を実施しました。会員の皆様のご協力により、円滑に選挙を実施できましたことに深くお礼申し上げます。

(担当:高橋恵子、永井智子、西村恵理奈、相澤恵子、射場典子)

## ■ 学会誌編集委員会からのお知らせ

2023年度は、数多くの論文をご投稿いただいています。ご投稿いただいた著者の皆様に心より感謝しております。過去5年の投稿論文数(採択数)、初回査読通知までの日数(平均)、採択通知までの日数(平均)を集計しましたところ、2023年度は、初回査読通知までの日数(平均)については、投稿論文数が増えたことも影響し、2022年度と比較すると日数が増えています。採択通知までの日数(平均)を短縮することができました(表1)。編集委員会では、引き続き査読期間の短縮に向けて取り組んでまいります。皆様の論文投稿を心よりお待ちしております。

表1. 過去5年間の投稿論文数、初回査読通知までの日数(平均)、採択通知までの日数(平均)

年度	投稿論文数(採択数)	初回査読通知までの日数(平均)	採択通知までの日数(平均)
2019年度	2(2)	86	253
2020年度	6(4)	102	214
2021年度	9(7)	99	239
2022年度	3(3)	62	226
2023年度	10(5)	75	172

2023年度:12月までに投稿された論文について集計。査読中の論文を含む。

(担当:有森直子、大坂和可子)

## ■ 庶務からのお知らせ

能登半島地震により被害を受けられた皆様に、心からお見舞い申し上げます。

年度末が近付き、ご所属に変化がある会員の皆様もいらっしゃるかと存じます。

庶務では学会活動の様々な側面から引き続き皆様をサポートいたしますので、手続きが難しい状況にあるなどがございましたら、ご相談をいただければと存じます。

また今後、法令の改正を踏まえて、学会のプライバシーポリシーの改訂等を行っていきます。社会の要請も踏まえ、より良い学会活動ができるように事務局とともにご支援ができればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

(担当:大久保暢子、森田誠子、西垣佳織)

## ■ 会計からのお知らせ

2024年度の新しい活動計画を立てる時期になりました。2024年度は久しぶりに会場での学術集会開催などが計画されています。周年事業の準備も徐々にされていきます。論文投稿も活発になっていますし、各委員会の企画も楽しみです。

学会活動は皆様の会費により成り立ちます。今年度の年会費をまだお支払いになっていない方は是非とも2023年度中に納入してください。本学会の規定では、3年間年会費を滞納された方は除名になってしまいます(その際にも未納入の会費の請求を行います)。魅力ある学会をつくるために、ぜひ年会費の納入をお願いします。

振り込み先:郵便振替口座

口座番号:00100-8-670371

加入者名:一般社団法人聖路加看護学会

(担当:平林優子、小林真朝、亀田典宏)

## 第29回聖路加看護学会学術大会のお知らせ

会期:2024年9月28日(土)

会場:聖路加国際大学

テーマ:看護のダイバーシティを拓く

—守る価値観と変える価値観—

学術大会会長:野崎真奈美(順天堂大学)

演題募集! 2024年4月8日(月)~

## ■ 編集後記

この年明けは、大きな災害と事故が続きました。被災された方ならびに支援活動に従事する方の日常生活に、少しでも落ち着きが戻ることを願い、心を寄せ続けたいと思います。  
(大橋久美子 佐居由美 海老原樹恵 賀数勝太 瀬戸山陽子 竹森志穂 松尾尚美)

ニュースレター発行や様々な情報をメールリングリストでお伝えします。

メールアドレスが変更された場合は、

変更届フォームにて、<https://slnr.or.jp/change/>

学会事務局までご連絡ください



一般社団法人 聖路加看護学会ニュースレター No.64

▶ 発行:2024年2月28日

▶ 編集:広報委員会

(大橋久美子 佐居由美 海老原樹恵 賀数勝太 瀬戸山陽子 竹森志穂 松尾尚美)

▶ 連絡先:〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内

[学会ホームページ] <https://slnr.or.jp/>